



山村振興のキーポイント

低コスト林業と確実な収入が生み出す地域の活性化



【土佐の森・
救援隊から学ぶ】

環境保全への対価 環境保全活動として 出資補填を導入

本来、バイオマスプラントへの出荷による対価ではコスト的に不足するが、残材の収集・処理を地球環境保全活動の一環として町から環境支払いを受け補填している。さらに、この環境支払いを町が地域通貨で支払うことによって、地域経済の活性化にも寄与することとなった。

行政の支援

生産実績により 行政から支援を得る

個人活動により間伐材生産量が向上し、集約林業と同様の生産実績を残すことで、旧日本川町や高知県等の理解を得られ、様々な支援や事業を導入している。

ネットワーク

ネットワークで人力のシェア

個人林家やボランティアが個別に間伐作業を行う場合、搬出等で車や人手がどうしても足りない時がある、その時に土佐の森・救援隊のネットワークで、機材や人力のシェアをし合い、助け合うシステムにより継続できている。また、協力体制として個人林家やボランティアによる生産森林組合も設立している。

林業の手法

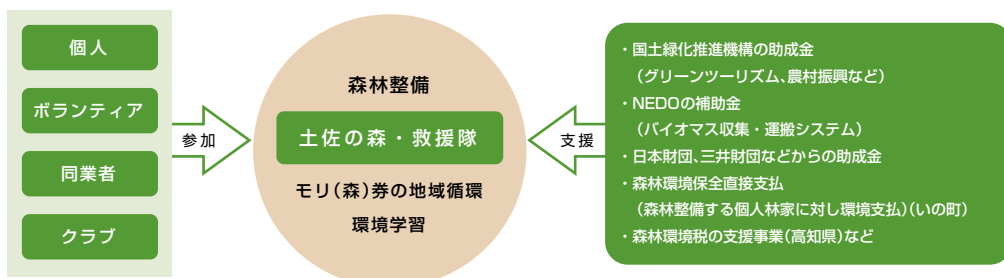
低コストの小規模林業で 「晩酌代」を確保

個人林家やボランティア等が、簡易搬出機械や軽トラック等で収集・搬出を行うことは小規模であるが、低コストで活動でき、間伐材で得られる収入は大きくはないが、「晩酌代」を稼ぐといった意識が作業活動のやる気につながっている。



活用した組織と制度

民間企業、財団、行政等の助成を活用



その人に聞く

小規模林業が 「森林と山村の再生」につながる

NPO法人 土佐の森・救援隊 事務局長 中嶋健造 氏



林業は小規模であればコストが掛からない方法があります。それはボラバイト的林業であったり、趣味であったり、季節型林業などであり、ゆとりを持ってやることのできるのです。私たちはそういった方法で、伐採した分をそのまま副収入となる仕組みを提供しています。この「コストが掛かってないからやってもやらなくても良い」という点が大事です。「晩酌代」を稼ぐ程度の感覚が原動力となって林業をやってみたいという人を増やし、現在約60名の人が個人レベルで林業をやっています。そして、農家や退職者が副業としてやれることで、生活が安定し、山村で働く人を増やし、地域も活性化していく。これは正に「森林と山村の再生」なのです。

これまで、様々な事業に取り組んできましたが、個人レベルでも十分できるのです。例えば、バイオマスプラント用の残材収集にしても、最初はプラントの100%稼働ラインの1割の200tでよいと言われていたのですが、それまでの活動ですぐに達成できると思いました。実際、すぐにノルマは超えて、現在では個人レベルの収集で稼働ライン以上の実績を上げるまでになっています。

こういった、小規模林家での山林づくりは、どこでもできると思っています。将来的には農家や退職者が副業的に林業をして、「自分の山は自分で管理する」を無理なくでき、地域振興につながるシステムにしていきたいと考えています。



今後の課題・展望

行政や森林組合等との協力体制の構築

目標1

労災面での 保障体制の構築

現在、個人やボランティアで行っている間伐作業においては、何かあったときの保障がないことが問題であり、その体制づくりをしていく必要がある。そのためには、行政を含め森林ボランティアに対する保障等の仕組みづくりが必要である。

目標2

行政や森林組合等との 協力体制づくり

今後の活動を拡大していくためには、いの町のように協力してもらえ、自治体との連携体制づくりや森林組合との協力体制を構築していく必要がある。

関連・関係する団体

いの町役場 〒781-2192 高知県吾川郡いの町1700-1 Tel : 088-893-1111